

「防災ロゲイニング」の発案と実践

A suggestion and practice of "disaster prevention rogaining "

美澤 綾子
Ayako MISAWA

静岡県立静岡高等学校
Shizuoka Prefectural Shizuoka high School

I suggested "disaster prevention rogaining" to learn a viewpoint of the disaster prevention for a game sense happily. It arranged so that it could originally turn around the point concerning disaster prevention in rogaining which is the game which turns around the point installed into nature. It carried out by the disaster prevention study meeting of a lesson of a high school or a member of society, teacher training. It turned out that it can practice even if it changes the competition time and a place, a candidate. The use in a lesson, not only training but local disaster prevention is expected.

Keywords : disaster prevention rogaining, local investigation, the viewpoint of disaster prevention, regardless of age

1. はじめに

自然災害に備えるには、災害の原因となる自然現象を知ること、そして地域を知ることが重要である。

これまで静岡県内の3つの高等学校で、地域や学校の特性に応じた地震防災教育プログラムを作成し、実践してきた。なかでも、地域を知るには、防災マップづくりが有効であった。実際に歩いてみると、防災の視点で街を見ることができるようになる。授業だけでなく、公開講座を開講し、地域の方々とも防災マップを作ってきた。

一方で、「防災訓練の参加者が少ない」という地域の防災担当者の嘆きや、「防災マップはできたものだけくれればいい」という住民の声も聞いた。防災訓練には若年層が関心を持って参加できるメニューが必要であるし、防災マップはあっても現地を確認しないと意味がない。

そこで、年齢にかかわらず、ゲーム感覚で防災に関する視点を身につける方法として、ロゲイニングという競技の防災版を発案した。その実践について報告する。

2. 「防災ロゲイニング」について

(1)「防災ロゲイニング」とは

「防災ロゲイニング」とは、地域にある防災に関するポイントを制限時間内に数多く回り、獲得した点数の多さを競うものである。本来は自然の中に設置されたポイントをまわる競技であるロゲイニングを、防災に関するポイント(表1)をまわるようにアレンジした。

表1 防災に関するポイント

① 危険なもの 燃料タンク、倒れそうなブロック塀、 固定されていない自動販売機、橋など
② 防火や防災に関するもの 消火器、消火栓、ポンプ倉庫、防災倉庫、 耐震性貯水槽など
③ 災害後に必要なもの 避難所、病院、緑の公衆電話、AED、 食料品店、薬局、掲示板など

(2)ルール

- ・チームは3～5人で構成する。
- ・競技時間は、30～60分程度。
- ・地図と写真表は、スタート5分程度前に配布される。
- ・ポイントをまわる順番は自由。
- ・(市街地での安全確保のため)歩いて移動する。
- ・各ポイントには、1～30点程度の点数がついている。
- ・ポイントの通過証明は、写真撮影による。
- ・競技終了時刻を超過してゴールした場合は、毎分5点の割合で減点する。
- ・順位は総得点から超過時間の減点を差し引いた得点で決定する。
- ・同点者がいる場合、先に終了した人が上の順位になる。

(3)地図と写真表

準備として、対象地域にある防災に関するポイントを撮影し、位置を地図に記載する。表1の3つの観点や位置のバランスを考慮してポイントを選び、地図と写真表を作成する(図1)。ポイント数は南北1.5km×東西1.0kmのエリアで20ヶ所程度である。



図1 写真表(静岡高校周辺用)

3. 競技の流れ

①チーム作り

3～5 人の班を作り、役割分担（班長、記録、カメラ、安全、時間など）をする。

②競技説明

ルールを説明し、「時間を守る」「広がって歩かない」「交通ルールを守る」などの注意事項を伝える。

③作戦会議

地図と写真表を受け取り、チームで作戦会議をする。

④スタート

⑤街歩き（＝競技）

地図と写真表を参考に、防災に関するポイントを見つけ、写真表の写真と同じ構図で撮影する。その際、撮影者（カメラ担当）以外の班員全員が写真に写る。

⑥ゴール

写真のチェックを受け、ポイントを認定してもらう。

⑦結果発表

4. 3つの実践

(1)授業での実践

静岡高等学校の授業（2年文系選択地学、2クラス）で、地震の単元の最後に実施した。学校周辺の南北 1.5km、東西 1.0km のエリアで、20 ポイントを 40 分で回るコースにした。最も少ないチームは 4 ポイント、最も多いチームでは 17 ポイントを回った。なかには回るだけでなく、自分たちが見て危険だと思う場所や災害後に役立つものを自主的に撮影し、報告した班もあった。



写真1 写真表の写真



写真2 ポイント撮影の様子

(2)防災勉強会での実践

大学、企業、県や市、消防局などで防災に携わっている方々との防災勉強会の中で実施した。参加者は20～60歳代の13名で、(1)と同じエリアで行った（写真3）。ゴール後には、各チームで撮ってきた写真を見ながら、意見交換が盛んに行われていた（写真4）。



写真3 防災倉庫の前でポーズをとる参加者



写真4 ゴール後に写真で振り返り

(3)教員対象の講習での実践

静岡大学静岡キャンパスで開催された教員対象の講習で実施した。キャンパス内の南北500m、東西600mのエリアで、18ポイントを30分で回るコースにした。参加者は10名で、校種別にチーム（小学校3名、中学校3名、高校4名）を編成した。ほとんどの参加者が初対面にもかかわらず、作戦会議から打ち解けていた。

5. 参加者の反応から見たこと

参加者の感想を以下に示す（表2）。

表2 参加者の感想

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・行くか、引くか、時間とのかけ引きが想像以上に楽しかった。・ゲーム感覚で防災拠点を知ることができた。・時間は1時間位でも大丈夫でした。・40分（休みなし）はかなりキツイ。・これを機に自分の住んでいる地域を見て確認する。・暑い。もっと涼しい時期にやりたい。・人数が多すぎると車への注意がおろそかになりそう。1班3人程度がベストか？・チームワーク作りにも良い。・疲れたけどおもしろかった。・防災の視点で街歩きすると、防災関連のモノがよく目についた。・危険な所もたくさんあった。・すぐにでも授業に取り入れられそう。・小学校の総合的な学習で行いたい。・健康づくりを兼ねて地域の人たちが多く参加できるといい。歩くと感じる。 |
|---|

3つの実践とも、「楽しい」「おもしろい」というコメントが大変多かった。高校生だけでなく、大人も楽しめる競技だということがわかった。コース内の地域をよく知っている人も、知らない人も地図と写真表があれば、競技に参加できていた。危険な場所に気づいたり、防災関連のものが目につくようになったりと、「防災の視点で街を見る」という目標は達成されたようである。

今回は6～7月に行った。歩くだけなので、雨の中でも実施可能であったが、暑い時期には熱中症対策も必要だろう。競技時間は、授業時間内に帰って来られるように30～40分に設定したが、長いと答えた人は少数だった。

社会人の感想には、仲間づくりや運動不足の解消に関するものが複数あった。地域の防災コミュニティの形成にも役立ちそうである。また、教員研修参加者からは、小・中・高すべての校種で「すぐにつかえる」というコメントをいただいた。小学生や中学生にも対応できる内容になっていると考えられる。

6. おわりに

年齢を問わず、ゲーム感覚で防災に関する視点を身につける方法として「防災ロゲイニング」を立案し、10～60歳代を対象に実践した。どの年齢層にも好評で、雨の日でも実施できることもわかった。

今後は、学校周辺の地域防災活動として、実践の場を広げていきたい。また、学校や地域の防災担当者を対象としたワークショップを企画し、「防災ロゲイニング」を開催するときに必要なノウハウを伝えていきたい。

参考文献

- 1) 日本ロゲイニング協会ホームページ
<http://www.rogaining.jp/index.php?lang=ja>

謝辞

本研究を実施するにあたり、しずおか防災検討会の皆様には貴重なご意見をいただきました。ここに記して、深く感謝申し上げます。